



CONTENTS

- 「高大接続改革実行プラン」
におけるFDの課題
教務部長 経営学部教授
猿山 義広
- 学生が自身との関わりを
実感できる授業
総合教育研究部准教授
勅使河原 三保子
- 平成 27 年度
新規採用教員オリエンテーション
- 平成 26 年度活動報告
- FD推進委員会の今後の予定

「高大接続改革実行プラン」におけるFDの課題

教務部長

経営学部教授 猿山 義広

今年1月、文部科学省は、中教審答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」（平成26年12月22日）を踏まえ、高大接続改革実行プランを公表した。中教審答申と同様、このプランについても新たな学力評価テスト（「高等学校基礎学力テスト（仮称）」及び「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」）の導入が中心になっているが、大学教育についてもかなり大胆な改革が提唱されている。同プランにおける【改革の方向性】とは、次のようなものである。

(1) 大学教育の質的転換

- ①3つのポリシーの一体的策定の義務付
- ②SDの義務化をはじめとする学長補佐体制の充実
- ③アクティブ・ラーニングの導入など、教育の質的転換の推進

(2) 学生の学修成果の把握・評価の推進

- ①学修成果や内部質保証に関する評価規定の創設

(3) 大学への編入学等の推進

- ①高校専攻科修了生の大学への編入学について、必要な制度改正
- ②入学後に幅広い学問分野に触れた上で進路決定が可能となる取組の推進
- ③大学入学後の進路変更や学び直しのための環境整備についての検討

これらのうちFDの課題として検討すべきものは、第一にアクティブ・ラーニングの推進、第二に学修成果の把握、第三にSDであろう。

アクティブ・ラーニングの推進にあたっては、施設の整備とノウハウの習得、両面での取組が必要になってくる。学修成果の把握に関しては、客観性と比較可能性が担保された新たなテストの導入が不可欠であろう。また、SDについては、授業に直接携わる教員以外の教職員（学長等の執行部、学部長等、事務職員、技術職員等）を対象にした研修等の取組を検討しなければならない。

個人的な感想を述べれば、こうした課題に取り組んでいくためには、個々の学生の潜在能力を成果に結びつけるための、個々の教員の資質に応じた形でのFD推進、という視点が重要だと思う。学校教育法等の一部改正に伴う内部規則の見直しによって、FDは「組織的な研修等」として学則に規定されたが、組織的な取組が画一的で均質な取組にならないよう、それぞれの教員にとって、それぞれの実りが期待できるFD活動の展開に努めていきたい。

連載企画：よりよい教育のために

「学生が自身との関わりを実感できる授業」

総合教育研究部准教授

勅使河原 三保子

我が総合教育研究部外国語第一部門は全学の英語科目を担当しており、その内訳は必修・選択必修科目（必修英語、除くGMS学部生）が約9割で、残りが全学部対象の選択科目です。当部門では昨年度より新カリキュラムを導入しており、その内容を簡単に説明すると、必修英語では学生の学力の多様化に対応するため緩やかな習熟度別クラス編成を導入し、シラバスの一部を共通化することにより質の標準化を図っています。選択科目も学生のニーズ、社会の要請に応えながら、担当教員の専門性も反映できるような多様な科目に衣替えしました。現在も課題は山積していますが、担当科目全体のさらなる質向上のためには、上記に加えて各教員の努力が不可欠です。以下、実践を通して教育方法の模索を続けている一英語教員としての私の取り組みをご紹介します。議論のきっかけにいただければと存じます。

必修英語には学習意欲の低い学生も数多くいます。専門学部の必修科目にもそういう学生はいるのかもしれませんが、専門教育以外の学生の自由意思による選択がほとんど許されない科目にはさらに難しいことが多いのではないかと感じています。しかし、その本学の必修英語の現状に向き合って、学生の履修をさらに有意義なものにしていくのが我々の使命だと考えます。

私が必修英語で特に心掛けているのは、学生が授業を通して学習内容が自分に関係することを自覚して興味を抱き、授業外でも自発的に学習するようになるきっかけを提供することです。レベル分けを始めたと言えど、依然学力も学習意欲も多様な学生たちに今受けている授業が自分に関連することを直接的にも間接的にも示すことは重要です。仮に英語自体でなくても、授業で扱った内容に興味を持って自発的に調べたり、関連ニュースに注意するようになるだけでも一つの成果と私は考えます。そのような授業を実現するた

め、私はウェブ上の記事や動画から生の英語素材を、学生が普段ニュースで見聞きするような地球規模で取り組まねばならない問題や、自文化・異文化に関するいくつかのテーマ（グローバル化と言語、異常気象、クールジャパン等）の下に収集し授業を組み立てています。今年度はさらに新規テーマ（戦争の記憶、多様性、他）を取り上げる予定で、多様性については、渋谷区での同性婚だけでなく、タイミングよく海外の政治家の報道が最近出たため、授業に用いる素材を探すのを今から楽しみにしています。授業準備は負担も多いですが、私の授業が世界で起こる様々な出来事や自文化・異文化に対して学生の目を開かせるきっかけになればと考えています。

 平成 27 年度新規採用教員オリエンテーション

本年度も4月1日に今年度より新たにご出講いただく先生方を対象としたオリエンテーションを開催し、専任教員15名、非常勤教員61名の計76名の先生方にご出席いただきました。

オリエンテーション第一部では廣瀬良弘学長より本学の建学の理念について、猿山義広教務部長より本学の教育方針等について、前FD推進委員会小委員会委員長の田中靖先生（文学部教授）より本学のFD活動について説明をいただき、事務局からは、総合情報センター（「KOMAnet（コマネット）」、「ユーザーID」、「YeStudy（e-learning）等の利用について」）、図書館（「図書館の利用案内について」）、教務部（「授業運営に関係する説明」）が説明を行い、第一部終了後、希望された先生方を講師控室およびAV教場にご案内しました。

第二部では、専任教員を対象に教務部から公的研究費、教員教育研究費等に関する説明を行いました。

オリエンテーションについて、ご意見、ご提案等ございましたら事務局までお申し出ください。

1. 開催日時

平成 27 年 4 月 1 日（水）14：40～16：00

2. 出席者数

76 名（案内状発送 119 名）

3. オリエンテーション次第

- ・ 学長挨拶
- ・ 教務部長挨拶
- ・ 前 F D 推進委員会小委員会委員長挨拶
- ・ 大学案内（教務部・総合情報センター・図書館）
- ・ 質疑応答
 - 質疑応答後、希望者を講師控室、A V 教場を案内した。



(オリエンテーションの様子)

平成 26 年度 F D 推進委員会及び小委員会の活動報告

平成 26 年

4 月

- ・ 「新規採用教員オリエンテーション」を開催
- ・ 第 1 回 F D 推進委員会及び小委員会を開催

6 月

- ・ 第 2 回 F D 推進委員会小委員会を開催
- ・ 2014 年度「学生による授業アンケート」(前期)の実施

- ・ FD NEWSLETTER 第 39 号を発行

7 月

- ・ 第 3 回 F D 推進委員会小委員会を開催

9 月

- ・ 第 2 回 (臨時) F D 推進委員会を開催
- ・ FD NEWSLETTER 第 40 号を発行

10 月

- ・ 第 4 回 F D 推進委員会小委員会を開催
- ・ 第 5 回 (臨時) F D 推進委員会小委員会を開催
- ・ 第 3 回 F D 推進委員会を開催

11 月

- ・ 2014 年度「学生による授業アンケート」(後期)の実施

- ・ 平成 26 年度公開授業の実施 (12 月 8 日まで)

12 月

- ・ FD NEWSLETTER 第 41 号を発行

平成 27 年

1 月

- ・ 第 6 回 F D 推進委員会小委員会を開催
- ・ 平成 26 年度 F D 研修会を実施

2 月

- ・ 第 7 回 F D 推進委員会小委員会を開催

3 月

- ・ 第 4 回 F D 推進委員会を開催
- ・ FD NEWSLETTER 第 42 号を発行
- ・ 平成 26 年度『F D 活動報告書』を発行

FD推進委員会の今後の活動予定

- 平成 27 年度第 4 回FD推進委員会小委員会
平成 27 年 7 月 28 日 (火) 14:00 ~

※FD活動についてご意見がありましたら、各学部等の小委員会委員までお申し出ください。

~2015 年度「学生による授業アンケート」(後期) 実施のお知らせ~

実施期間：平成 27 年 11 月 9 日 (月) ~28 日 (土)

対象科目：全科目対象 (集中講義科目、演習科目、
受講生が 20 名未満の科目は除く)

※WEBによるアンケートを実施しています (PC、
スマートフォン、携帯電話、タブレット等を使用し
て回答されます)。



編集後記

『FD NEWSLETTER 第 43 号』をお届けします。

巻頭言を教務部長の猿山義広先生に、連載企画を総合教育研究部の勅使河原三保子先生にご執筆いただきました。

猿山先生の「高大接続改革実行プランにおけるFDの課題」では、今後のFD活動における大きな3つの課題が示されました。全学的に取り組んでいかなければならない大いに検討すべき課題ですので、全教職員で問題や情報を共有し、よりよい教育のために取り組んで参りましょう。

勅使河原先生の「学生が自身との関わりを実感できる授業」では、授業における実践例をご紹介いただきました。各授業によって様々な状況ではありますが、授業外でも学生が自発的に学習するようになるきっかけ作りはどの授業にも必要なことだと考えます。このような個々の教職員の創意工夫や知見を多くの教職員間で共有し、それぞれなりの活用に繋げていければと思います。そのためにも、今後とも貴重なご報告や忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後に、新学期の公務ご多忙の折にご協力いただきました先生方に深く感謝申し上げます。

(遠藤 司・山口 良博)

【タイトル横の写真は、禅研究館】

FD NEWSLETTER Jun. 2015 第 43 号

発行日：2015 年 6 月 30 日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)